

令和7年度 中播磨地域づくり活動応援事業 (県民躍動費) 事例集

兵庫県中播磨県民センター



目次

事例 1	第 9 回異文化交流会（Music&Danceの会）	事例16	ジャコウアゲハが飛び交う街「姫路」プロジェクト （ジャコウアゲハが飛び交う街姫路連絡協議会）
事例 2	SDGs 2025 未来を拓く共創プロジェクト～高校生と企業の協 力によるイノベーション～（一般社団法人 Social Eight）	事例17	あそびのひろば（地域子育てコミュニティ「ほっぺ」）
事例 3	東洋応援プロジェクト（プロジェクト東洋）	事例18	生野道と銀の馬車道の詳細ルート検索と学習会 （銀の馬車道・船津の会）
事例 4	千姫大河ドラマフォーラム（姫路千姫顕彰会）	事例19	奥播磨かかしの里 フィールドパビリオン推進事業 （ふるさとかかし親の会）
事例 5	外来種ミシシippアカミガメの防除活動 （環境保全団体ぴおにあーる）	事例20	神崎郡 3 町を巡るサイクリングマップ事業 （福崎町文化観光まちづくり協議会）
事例 6	西播磨地区生活研究グループ交換大会 （姫路神崎生活研究グループ連絡協議会）	事例21	プレストアウェアネス（乳房を意識する生活）啓発事業 （ピンクリボンひめじ）
事例 7	未来に伝えたい～増位山の魅力！ （増位山伝統文化保存会）	事例22	心の解放基地 ふわっとカフェ姫路（ふわっとカフェ姫路）
事例 8	ひめじSubかる☆フェスティバル2026 （ひめじSubかる☆フェスティバル実行委員会）	事例23	勝原地区のまちづくりを考える（勝原地区まちづくり研究会）
事例 9	Autumn fair（中播磨地区商工会青年部連絡協議会）	事例24	汐入川の清掃と環境学習（汐入川をきれいにする会）
事例10	夢前町絵本作りと山遊び（北恒屋みつばちプロジェクト）	事例25	「中播磨パラスポーツ普及活動事業」 （中播磨パラスポーツを楽しむ会）
事例11	HIMEJI JCスマイル☆フェスタ2025～心弾ませろ！Let's共創 Summer～（公益社団法人姫路青年会議所）	事例26	空き家見学と有機農業体験ツアー （一般社団法人かみかわ移住定住サポートセンター）
事例12	香寺太鼓地域づくり事業（香寺太鼓）	事例27	播磨の食文化を伝える事業（播磨の食文化を伝える会）
事例13	部活動地域移行に伴うバドミントンニーズの調査と体験会 （有志団体Connect）	事例28	中播磨「海・里・山」を結ぶ料理プロジェクト （中播磨「海・里・山」をむすぶ「食」の研究会）
事例14	未来次世代「伝統と革新☆創造」チャレンジアクション事業 （∞和ールド環イド∞JAPAN®）	事例29	地域特産品普及活動事業 （しるべ TOMISUMURA CONCIERGE）
事例15	いちかわひまりん納涼祭（いちかわひまりん納涼祭プロジェクト）		

1 概要

異文化団体のステージや、出演者同士のコラボステージ、出演者と観客との交流を行うイベントを開催し、異文化への理解を促進する。

2 解決を目指した地域課題

- 異文化を紹介する場が少なく、一般の方が異文化に接する機会が少ない

3 取組内容・成果

音楽やダンスに取り組む団体が出演し、単独ステージやコラボステージを披露する「異文化交流会」を開催し、参加者に異文化への理解を深めていただいた。

時期	主な内容
7月、8月	イベントの企画・準備等
9月	第9回異文化交流会開催（参加者396名）
10月	今後の取組に向けた反省会開催



異文化交流会の様子

4 今後の展開（実施団体の声）

入場料の検討や協賛金の開拓など自主財源確保に取り組み、今後も異文化の紹介、コラボを継続していく。

1 概要

地元企業と学生が連携し、各企業の課題を踏まえたSDGsに関する新規事業を検討、その成果を発表するイベントを開催し、学生の実践教育の機会を提供するとともに企業のSDGsを推進する。

2 解決を目指した地域課題

- 学生が課題を解決するための実践的な学び、PDCAの体験、成果発表などの機会が少ない
- 地域に根ざす中小企業等のSDGsの更なる推進

3 取組内容・成果

企業と学生による複数チームを立ち上げ、企業が持つ課題を踏まえたSDGsの達成に貢献する新たな取組を検討。中間発表、発表に対するフィードバック、ブラッシュアップ、最終発表の流れにより、学生に企業とのつながりや、実践的なPDCAの体験等を提供した。

時期	主な内容
4～6月	参加企業、学生の募集
6月	キックオフミーティング開催（5チーム編成）
8月	中間発表会、基調講演（参加者145名）
12月	最終発表会（参加者86名）



最終発表の様子

4 今後の展開（実施団体の声）

取組に参画いただいた方々など、地域・社会との連携を強化し、様々な分野において地域課題の解決にチャレンジしていく。

1 概要

高校生が、高齢化・担い手不足が進む地域の方々と協力し、休耕田を利用した農作物の栽培、除草ロボットや新商品の開発、害獣対策、地元の子どもの調理実習、さらには地場産業の学習などに取り組み、食文化の理解、地域との協働・交流を促進する。

2 解決を目指した地域課題

- 高齢化や担い手不足に伴うコミュニティの希薄化
- 若い世代における地域の伝統産業（地場産業）の理解不足

3 取組内容・成果

休耕田でのスマート農業・環境保全型農業を取り入れた米作り体験、収穫した米を加工した米粉入りうどん製作、子どもから高齢者までが参加する多世代食育会の開催などにより、参加者の地域への愛着の醸成、高校生の主体性・自己肯定感の向上につながった。

時期	主な内容
4月～	土づくり、肥料づくり
随時	田畑の手入れ、新商品開発等
10月	フードライブ開催等（参加者50名）
2月	地産地消多世代交流食育フェスティバル（参加者25名）



田んぼの手入れの様子

4 今後の展開（実施団体の声）

地場産業の発展、環境に配慮した農業の推進、新商品の開発、世代間交流を継続し、持続可能な社会の実現を目指す。地域行事への積極的な参加、伝統・文化の継承、子どもや保護者と連携した食育活動にも取り組んでいく。

1 概要

千姫ゆかりの地巡り、お城まつりパレードへの参加、千姫フォーラムの開催等を、全国の千姫ゆかりの活動団体とも連携して実施し、千姫と姫路城の魅力を発信する。

2 解決を目指した地域課題

- 姫路城への地元市民や若者の来場の増加
- 姫路城の歴史に興味を持っていただく

3 取組内容・成果

姫路お城まつり歴史パレード出演による千姫大河ドラマ運動のP R、千姫フォーラムの開催、千姫の命日法要としのぶ会の開催、千姫ゆかりのちの方々との交流により、千姫と姫路城の魅力が浸透、賛同者の増加につながった。

時期	主な内容
5月	姫路お城まつり歴史パレード出演（参加者40名）
10月	千姫フォーラムの開催（参加者250名）
2月	千姫の命日法要としのぶ会の開催（参加者40名）



姫路お城まつり歴史パレード

4 今後の展開（実施団体の声）

会員の増加を図り、ゆかりの地の市民団体、自治体とともに大河ドラマ実現に向けて活動の輪を広げていく。

1 概要

生態系への影響が懸念される条件付特定外来生物であるミシシippアカミガメの防除活動を実施し、中播磨地域の希少生物が過ごしやすい豊かな自然環境の回復を目指す。

2 解決を目指した地域課題

- 中播磨地域における条件付特定外来生物であるミシシippアカミガメの根絶
- 中播磨地域の希少生物が過ごしやすい豊かな環境の回復

3 取組内容・成果

姫路市的形町などの河川やため池において、日光浴ワナ、もんどりわな、たも網を用いた防除活動を住民参加のもと10回行い、計84個体を捕獲することができた。また活動状況を第12回淡水ガメ情報交換会において発表することで科学的な貢献にもつなげた。

時期	主な内容
4月 ～ 1月	ミシシippアカミガメの防除活動（参加者延べ32名） 姫路市的形町、高町池、夢前川
2月	第12回淡水ガメ情報交換会＆第1回水辺の外来種研究集会での発表（参加者約160名）



防除活動の様子

4 今後の展開（実施団体の声）

より広い住民参加を図るため効果的な情報発信を検討するなど、引き続き防除活動を行っていく。

1 概要

消費者が地域農産物や食育について学び、生産者と交流する機会となる大会を開催し、消費者に農業の現状や地域農産物の魅力を知ってもらう。

2 解決を目指した地域課題

- 生産者と消費者の分断の解消
- 消費者が農に触れる機会の創出

3 取組内容・成果

第54回西播磨地区生活研究グループ交換大会において、消費者の参加を促すため、生活情報誌を活用した広報や、農業の現状を分かりやすく伝える事例発表、講演、マルシェを企画・開催し、参加者の94%から「大会に満足した」、96%から「次回も参加したい」との回答を得ることができた。

時期	主な内容
4月～7月	イベントの企画・準備等
8月	西播磨地区生活研究グループ交換大会（参加者155名）
9月	今後の取組に向けた反省会開催



西播磨地区生活研究グループ交換大会

4 今後の展開（実施団体の声）

今回の大会参加者が農を取り入れた暮らしが実践できるようオープンファーム、みそづくり教室、農業体験などを案内していく。

1 概要

地域の子どもや保護者などを対象に天体観測などのワークショップ・講演会の開催、パンフレットの作成により、増位山の歴史と文化、豊かな自然など「埋もれた地域の貴重な資源」を活性化させる。

2 解決を目指した地域課題

- 増位山の歴史や文化といった埋もれた資源の活性化・次世代への継承
- 増位山自然公園来訪者の減少

3 取組内容・成果

小学生を対象としたワークショップ、中学生を対象とした講演・展示会、県立歴史博物館での講演会を開催するとともに、戦国時代、秀吉に攻略された増位山の有明山城を紹介する日英表記のパンフレットを作成し各所で配布した。中学生から増位山の歴史を知って「驚いた」「興味を持った」という声をいただくことができ、次年度開催の話も進んでいる。

時期	主な内容
8月	小学生向けワークショップの開催（参加者延べ60名）
12月	中学生向け講演・展示会の開催（参加者570名）
1月	県立歴史博物館での講演会の開催（参加者109名）



中学生向け講演・展示会

4 今後の展開（実施団体の声）

増位小学校の卒業記念として増位山に梅を植樹（予定）するなど、増位山の魅力創出、情報発信に引き続き取り組んでいく。

1 概要

コスプレイヤーの交流、地元アイドルのステージ等を中心とした「ひめじSubかる☆フェスティバル」を開催し、来訪者にサブカルチャーの魅力に触れてもらう。

2 解決を目指した地域課題

- サブカルチャーの魅力を発信する場が地方ではあまり確立されていない
- 地元活動家のもつ熱量が大都市に流出してしまっている

3 取組内容・成果

約500名のコスプレイヤーの参加・交流、100台の痛車展示、地元アイドルのステージ、鉄道模型・プラモデル展示などサブカルチャーの魅力に触れてもらう「ひめじSubかる☆フェスティバル」を「姫路バーガー博覧会」と同時開催し、約2万人に会場いただき、サブカルチャーを印象づけることができた。

時期	主な内容
7月～ 2月	イベントの企画・準備等
3月	ひめじSubかる☆フェスティバルの開催（参加者20,000名）
3月	今後の取組に向けた反省会開催



ひめじSubかる☆フェスティバル

4 今後の展開（実施団体の声）

今後も「新しい文化で姫路を盛り上げよう！」のスローガンとともに、姫路にサブカルチャー文化が根付けるように活動していく。

1 概要

工作のワークショップなどの職業体験や地域の団体によるステージ、地元食材を使った商品のPRを行うイベントを姫路・神河・市川・福崎の4地域の商工会青年部が連携して開催、中播磨の商工業の魅力をPR、「中播磨に住みたい・働きたい」というふるさと意識を醸成する。

2 解決を目指した地域課題

- 地域経済の活力低下、コミュニティ機能の維持
- 将来的な地場産業の担い手不足

3 取組内容・成果

プロの技術に触れることができる子ども向け職業体験ワークショップ、地域の食材を使用したグルメや販売ブースなどが出展するAutumn fairを市川町で開催することで、長期的な視点での「地域産業の担い手育成」「地元定着」に向けた種まきができた。

時期	主な内容
7月～11月	イベントの企画・準備等
11月	Autumn fairの開催（参加者1,200名）
1月	今後の取組に向けた課題を抽出する事業報告会開催



Autumn fair

4 今後の展開（実施団体の声）

今後も中播磨地区の商工会青年部が連携して、中播磨の各所で合同イベントを開催することで地域のにぎわいの創出につなげていく。

1 概要

地域に伝承された民話を題材にした絵本・紙芝居の作成・披露、里山での樹木名プレート・野鳥巣箱の設置により、子どもたちの郷土愛の醸成、環境について考える機会を提供する。

2 解決を目指した地域課題

- 姫路を訪れる観光客に安富町、香寺町、夢前町まで足を運んでもらう
- 子育て世代の住民に地域の民話を知ってもらい郷土愛を育てる

3 取組内容・成果

夢前町の絵本・紙芝居を製作し、前年に製作した安富町、香寺町の絵本と合わせて紙芝居公演を3回開催することで、姫路市北部の魅力を発信することができ、参加者からは応援の声をいただいた。他地域からの観光客増加を期待している。

時期	主な内容
4月～5月	絵本・紙芝居製作、巣箱製作・設置等
9月 11月 12月	紙芝居公演（参加者延べ220名）



紙芝居公演

4 今後の展開（実施団体の声）

製作した絵本を活用したバスツアーを旅行会社に働きかけたい。また、野鳥観察や野鳥図鑑ポスターの製作も進めていきたい。

1 概要

伝統的な盆踊り・新しく創作した盆踊りの披露や、DJと高校生とのコラボレーション、キッチンカーや飲食物販ブースでの姫路の魅力発信を行うスマイルフェスタ2025を開催し、地域の伝統を継承しつつ、老若男女が楽しめる場を提供する。

2 解決を目指した地域課題

- 姫路の発展のために自らも関わりたいというまちづくりへの意識を高める
- 多様な世代が交流し、姫路のまちに対する愛着を深める

3 取組内容・成果

スマイルフェスタ2025において、来場者が参加する伝統的な盆踊り・創作した盆踊り、DJと高校生のコラボ、キッチンカーや飲食・物販ブースなどにより姫路の魅力を体験いただき、まちづくりに対する意識を高め、「住んでみたい」「また訪れたい」と感じていただくことができた。

時期	主な内容
6月～8月	イベントの企画・準備、盆踊り練習会等
8月	スマイルフェスタ開催（参加者延べ20,000名（2日間））
9月	実施結果報告



スマイルフェスタ

4 今後の展開（実施団体の声）

参加した方がまちづくりなどに興味を持っていたけるように取り組んでいく。また、取組に興味のある方を誘い、仲間を増やしていく。

1 概要

各種施設への和太鼓の慰問演奏や夏祭り等の地域に根ざした演奏活動、20周年記念公演の開催により、地域コミュニティ活動の活性化、地域文化の継承、世代間交流を進める。

2 解決を目指した地域課題

- 地域文化の興隆
- 地域コミュニティ活動の活性化

3 取組内容・成果

これまで支援いただいた方々に感謝を伝える和太鼓のつどいの開催、地域イベントでの演奏、福祉施設での慰問演奏、太鼓教室の開催などにより、地域文化の旗振り役として貢献することができた。

時期	主な内容
6月～ 2月	地域イベントでの演奏
8月	和太鼓教室開催（参加者延べ33名（2日間））
9月	福祉施設での演奏（参加者100名）



和太鼓教室

4 今後の展開（実施団体の声）

和太鼓演奏の技術向上、演奏曲種のレパートリーの充実を図り、活動範囲を拡大していく。

1 概要

中学校における部活動の地域移行を見据え、バドミントン体験会を開催しバドミントンのニーズ把握や、中学生がバドミントンに取り組める環境づくりを進める。

2 解決を目指した地域課題

- 姫路市の中学校の部活にバドミントン部がない
- 子どもたちが継続的に競技へ参加できる環境が少ない。

3 取組内容・成果

中学生のバドミントンに対する興味・関心の調査、体験会の開催によるおもしろさや魅力の発信に取り組み、部活動の地域移行が進む中での受け皿の必要性、そのなかでもバドミントンのニーズの強さを感じることができた。

時期	主な内容
6月～12月	イベント開催に向けた企画・準備等
12月	イベント開催（参加者26名）
1月、3月	イベントの振り返り、アンケート結果の共有



バドミントン体験会

4 今後の展開（実施団体の声）

バドミントンのニーズを確認し、各地でバドミントンが実施できる環境を設けていく。

1 概要

子どもたちに、日本舞踊や武道などのプロから伝統文化を学んでもらい、発表会やステージイベント等での披露、SNS等による情報発信等を行い、日本伝統文化の魅力や強みへの理解を深める。

2 解決を目指した地域課題

- 古き良き伝統文化への興味関心の薄れ
- 地域コミュニティの衰退に紐づく、学びの機会や環境の喪失

3 取組内容・成果

子どもたちが主役となって伝統衣装・伝統工芸品を用いて、姿勢や所作などを学ぶ稽古を重ね、ステージでの発表、SNSなどによる情報発信を行い、年間を通じた取組により、子どもの自主自立性を向上することができた。

時期	主な内容
5月～2月	お稽古
5月 8月 9月 11月 12月	各種イベント出演 (姫路お城まつり、神楽舞奉納、カケルDAY等)



姫路お城まつり

4 今後の展開（実施団体の声）

多様な伝統文化を次世代に伝え繋ぐ取組を充実、創造していく。リアルとオンラインを組み合わせ、姫路から全国・世界に向けて発信していく

1 概要

少子高齢化が進み、地域の行事に支障が出る等コミュニティの希薄化が進む市川町で、お盆休みに納涼祭を開催し、地域住民と帰省者が交流することで、ふるさとの良さを再認識してもらい、Uターンにつなげる。

2 解決を目指した地域課題

- 若い世代の減少が著しく、地域行事に支障が生じている
- Uターン人口、関係人口の増加

3 取組内容・成果

「ただいま いちかわ」をキャッチコピーに、ゆったりと聞かせる音楽の演奏、地元のものを中心としたグルメ販売、事前にワークショップを開催し手作りしたランプシェードの小道設置などにより工夫したイベントを開催し、来場者、プロジェクトメンバー、地元事業者・出店者が交流することができた。

時期	主な内容
4月～ 8月	イベントの企画・準備等
7月	ランプシェードワークショップ開催（参加者10名）
8月	いちかわひまりん納涼祭開催（参加者200名）



いちかわひまりん納涼祭

4 今後の展開（実施団体の声）

地元の高校や都市部の大学との連携・交流を検討するとともに、イベントチラシへの広告掲載や寄附金募集など自主財源の確保に取り組んでいく。

1 概要

「ジャコウアゲハ」の勉強会、ジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサの植栽支援、観察画を描ける場の提供により、環境づくりやそれを支える人の育成といった人と環境にやさしいまちづくりにつなげる。

2 解決を目指した地域課題

- 未来へ繋がる地道な活動が必要
- 姫路を誇りに思える街になるよう、ジャコウアゲハを使った市民と地域を結ぶ活動が必要

3 取組内容・成果

市民参加型の勉強会、ジャコウアゲハをテーマにしたイベント、写真展・植物画展の開催、ジャコウアゲハの食草であるウマノスズクサの植栽支援活動などに取り組み、令和7年は小学校49校119クラスがウマノスズクサの生育に取り組んでいただくとともに、多くの方にイベント等に参加いただいた。

時期	主な内容
6月	駅前ウマノスズクサプランター作り(参加者100名)
6月	市長と市蝶を飛ばそうイベントの開催(参加者200名)
1月	「蝶のいる風景」写真展、植物画展開催(参加者延べ907名)
3月	ジャコウアゲハサミット開催(参加者40名)



「蝶のいる風景」写真展・植物画展

4 今後の展開(実施団体の声)

地域3世代市民への認知を進めるため、地域の公民館と連携したウマノスズクサの育成を検討していく。自主財源の確保にも取り組んでいく。

1 概要

地域の公民館で、様々な年代の人がスタッフとして参加して、自由に親子で遊べる空間、保護者同士のコミュニケーションの場を提供し、世代間の交流、子育て家庭への支援を図る。

2 解決を目指した地域課題

- 子育ての孤立
- 子育ての不安や負担を軽減すること

3 取組内容・成果

安心して子どもが自由に遊べる場と母親がほっとひと息つける環境を提供する「あそびのひろば」を定期的に開設し、参加した母親同士のつながりづくりや、子育ての不安や悩みを相談することによる子育てへの負担感の軽減に貢献することができた。

時期	主な内容
4月 ～ 3月	あそびのひろば開設（参加者延べ1,134名）



あそびのひろば

4 今後の展開（実施団体の声）

引き続き「あそびのひろば」を通して、子育て中の方の悩みや想いに寄り添い、保護者同士のつながりがスムーズに作れるようにサポートしていく。

1 概要

明治元年以前の姫路から生野への陸上ルートの検証及び明治10年時点の銀の馬車道の明確化や、識者による事実検証講演会の開催により、「銀の馬車道・鉱石の道」の正しいルートの情報発信や、各地の活動者の交流を図る。

2 解決を目指した地域課題

- 明治元年以前の姫路から生野へのルートがわからない
- 明治10年の銀の馬車道（シスレール）分断部がわからない

3 取組内容・成果

生野道の徒歩による確認、地域の方との情報交換、図書館や資料館などの調査により、伝承のチェック、情報のデータ化、地図への反映を行うことができた。

時期	主な内容
7月 9月 10月 11月 12月	講演会開催（参加者延べ224名）
11月	姫路市農林漁業祭に出展（参加者200名）



講演会

4 今後の展開（実施団体の声）

講演会に参加いただいた方の現地訪問の機会を検討するとともに、メンバーの学習にも取り組んでいく。

1 概要

野良着貸出しによる野良着撮影会や、野菜収穫体験、花苗記念植樹など、SDG s の視点に立った体験企画を1年通じて実施することにより、新たな魅力づくりを行い、交流促進を図る。

2 解決を目指した地域課題

- 交流人口増加に伴う地域の活性化
- 伝統行事や田畑の耕作の維持、耕作放棄地の復活

3 取組内容・成果

どんど焼きなどの伝統行事、野外カフェ&コンサート・野良着衣装の貸し出し、耕作放棄地を活用した野菜作り、記念植樹といったイベントの開催により、都市部住民との交流に取り組み、ご夫婦1組の移住が実現した。

時期	主な内容
4月 5月 9月 10月	野外カフェ&コンサート・野良着衣装貸し出しイベントの開催 (参加者延べ170名)
6月	ジャガイモ、タマネギの収穫体験(参加者100名)



野外カフェ & コンサート・
野良着衣装貸し出しイベント

4 今後の展開(実施団体の声)

「おくはりま倶楽部」との協働体制を柱に連携して活動に取り組んでいく。度々、イベントなどに参加いただいているリピーターとの親密な関係づくりを推進していく。

1 概要

レンタサイクルや自身の自転車で神崎郡を周遊できるマップを作成し、各町の観光交流センターや観光案内所に配架し、観光促進に繋げる。

2 解決を目指した地域課題

- 神崎郡 3 町間での観光促進
- 観光ルート開発による関係人口、交流人口の増加

3 取組内容・成果

3 町の観光関係者の協働のもとランドマークや観光スポット等を掲載したサイクリングマップを作成し、各町観光案内所などでの配布、WEBへの掲載により、レンタサイクル利用者の神崎郡観光に活用いただくことができた。

時期	主な内容
4 月	3 町の観光関係者の意見交換会開催 (参加者10名)
5 月 ～ 1 月	サイクリングマップの作成
2 月	各所での配布、WEB掲載などのPR



サイクリングマップ

4 今後の展開 (実施団体の声)

利用者の声などを踏まえたマップの更新、サイクリング以外のテーマでのマップ作成など、観光ルートの開発に取り組むとともに、協賛費などの自主財源が確保できる事業を検討していく。

1 概要

専門家によるセミナーの開催、姫路城ピンクライトアップ等による啓発活動や「女性健康応援冊子」の作成により、「ブレストアウェアネス（乳房を意識する生活）」を幅広い世代に広め、女性の健康意識向上を図る。

2 解決を目指した地域課題

- 乳がんの正しい知識を持ちと行動が取れるようになる
- すべての女性が心身ともに健康で、安心して自分らしい生活を送ることができる社会の実現

3 取組内容・成果

姫路城ピンクライトアップ等の啓発キャンペーン、ブレストアウェアネスセミナーの開催により、乳がんが「誰にでも起こりえる身近な健康のこと」として考えるきっかけを地域に広げることができた。

時期	主な内容
4月 ～ 9月	イベントの企画・準備等
10月	姫路城ピンクライトアップ
10月	ブレストアウェアネスセミナー開催（参加者67名）



姫路城ピンクライトアップ

4 今後の展開（実施団体の声）

本事業で得た成果やノウハウを活かし、他団体等と連携しながら活動を継続・発展させていく。自主財源の確保に取り組み、助成金に依存しすぎない体制を整える。

1 概要

生きづらさを抱える家族を持つ方々の心を開放や、自己肯定感を高めるため、対話会や、家族教室、ダンス教室を実施し、フラットで誰も取り残さない地域づくりを目指す。

2 解決を目指した地域課題

- 生きづらい家族を持つ家庭への心の支援
- 地域へのオープンダイアログの普及

3 取組内容・成果

精神的に生きづらさを持つ方の居場所、心を安心して開放できる場所を提供する「ふわっとカフェ」を開催し、新しい仲間やつながりを生みだすことができた。また、分子栄養学講座、アフリカンダンスにも取り組むことができた。

時期	主な内容
4月 ～ 2月	ふわっとカフェ・引きこもり家族教室・アフリカンダンス教室開催 (参加者延べ174名)



ふわっとカフェ

4 今後の展開（実施団体の声）

料理教室や演奏会等の参加費収入による自主財源の確保に努め、インクルーシブな社会をめざし、ふわっとカフェを定期的で開催していく。

1 概要

地域の小中学生を対象に講義やまち歩きを実施するほか、図書館等に研究結果をまとめた冊子を配布し、住民に校区の歴史的事実や文化遺産を伝え、地域への愛着を深めてもらう。

2 解決を目指した地域課題

- 勝原地区にある文化的史跡を次代に繋ぐ
- 新しい住民との協働

3 取組内容・成果

勝原地区の史跡等を調査し、冊子にまとめるとともに、勝原小学校6年生を対象とした史跡巡りイベントの開催により、勝原地区の魅力を広く周知することができた。

時期	主な内容
5月 ～ 9月	史跡等の調査（参加者延べ140名）
12月	勝原地区史跡巡り（参加者120名）
3月	冊子配布



調査の様子

4 今後の展開（実施団体の声）

未だわからないことも多く、さらに調査を進めるとともに、勝原小学校との連携を進め、児童たちに地元の歴史などを伝えていく。

1 概要

川の清掃、駅前花壇の世話活動、先進団体の取組状況の勉強、トライやるウィークの受け入れ等を実施し、水がきれいでゴミのない多様な動植物が生息する汐入川を目指し次代に引き継ぐ。

2 解決を目指した地域課題

- 汐入川の豊かな生物多様性を次代に引き継ぐ
- 大津・南大津・広畑・勝原の校区を超えた取組となるよう努力する。

3 取組内容・成果

川の清掃、駅前花壇の世話、自然観察活動に加え、児童・生徒からポスターを募集するなど、地域が連携した取組を進め、ふれあい・つながりの充実や、次代を担う若者の環境への関心を深めることができた。

時期	主な内容
年間	汐入川の清掃（毎月2回）、駅前花壇の世話（年数回）
6月 7月 9月 10月	自然観察会の開催（参加者延べ47名）



汐入川の清掃

4 今後の展開（実施団体の声）

関係自治会、近隣事業者の協力を得て自主財源を確保を図り、現在の取組を継続することで、高校生をはじめ住民の関心を高めていく。

1 概要

中播磨管内の学校等でパラスポーツ体験会を実施し、地域の障がい者や幅広い世代のパラスポーツを通じた交流、ルール周知やパラスポーツへの理解促進を図る。

2 解決を目指した地域課題

- 障害者が身近な場所で運動できる環境
- パラスポーツの審判のスキルアップ

3 取組内容・成果

「ボッチャ」「卓球バレー」などのパラスポーツの体験会を小学校や幼稚園などで開催するとともに、パラスポーツ審判研修会、市の関係部署との意見交換を実施することでパラスポーツの普及に取り組んだ。

時期	主な内容
5月～3月	パラスポーツ体験会開催（参加者延べ450名）
4月、8月、9月	パラスポーツ審判研修会開催（参加者延べ28名）



パラスポーツ体験会

4 今後の展開（実施団体の声）

地域内の小学校や障害者施設での体験の機会を増やしていく。

1 概要

空き家見学と有機農業体験をセットにした日帰りイベントを実施し、神河町の交流・関係人口及び定住人口の増加を図る。

2 解決を目指した地域課題

- 神河町への人口流入の増加
- 有機農業への関心を高める

3 取組内容・成果

空き家見学と有機農業体験ツアーでは、空き家見学に加え、住宅取得に関する補助制度の情報提供、地域柄などを案内、有機農業教室では大根の間引きやサツマイモの収穫、先輩移住者とも交流いただき、参加者に充実した1日を過ごしていただいた。

時期	主な内容
5月 ～ 9月	イベントの企画・準備等
10月	空き家見学と有機農業体験ツアー開催(参加者9名)
10月	反省会開催



空き家見学と有機農業体験ツアー

4 今後の展開(実施団体の声)

参加者からの費用負担を基本に自主財源を確保し、引き続き「空き家見学と有機農業体験ツアー」を企画していく。

1 概要

大学生と協働し、地元の食材を使った料理教室、講演会を開催し、未来の世代へ食文化を継承する人材を育成する。

2 解決を目指した地域課題

- 地域家庭で伝えられてきた伝統料理や行事食の衰退

3 取組内容・成果

「旬の食材」「郷土料理」などテーマを設定した料理教室を開催するとともに、大学生を対象に「播磨の食文化」の講話や地域食材を使った演習を実施し、参加者の食文化の伝承への目覚めを促すことができた。

時期	主な内容
4月 ～ 2月	料理教室開催（参加者延べ111名）
5月	大学生を対象にした講話（参加者25名）
6月	大学生を対象にした演習（参加者16名）



料理教室

4 今後の展開（実施団体の声）

次年度は郷土の行事食をテーマに取り組んでいく。また、自主財源の確保について参加費以外の収入獲得を検討していく。

1 概要

中播磨の農・漁・狩猟の生産者と将来「食」にかかわる若者が連携し、地域食材を使った研修会や料理コンテストを開催し、食文化の継承と地産地消、観光PRを図る。

2 解決を目指した地域課題

- 農業・漁業・狩猟の生産者同士のつながりを深める
- 地域の食材を生かした新たな価値や魅力を創出する

3 取組内容・成果

食に関心のある学生等を対象に「海・里・山をつなぐ」をテーマにしたオリジナル料理のレシピ開発を行うチームを編成し、料理コンテストを開催した。コンテストで選ばれた優秀レシピをパンフレットやSNSを通じて広く発信した。

時期	主な内容
7月 9月	地産地消研究会（3回、参加者延べ165名）
10月	料理コンテスト開催（参加者38名）
12月	姫路駅前で開催したマルシェで優秀レシピを発表（参加者250名）



地産地消研究会

4 今後の展開（実施団体の声）

本事業で生まれたレシピを地域の飲食店等を通じて多くの人に伝える取組を進めていくとともに、地域の食文化を担う次世代人材の育成につなげていく。

1 概要

地域特産品である柚子の収穫体験や加工実習を実施し、柚子の認知度向上や農業の担い手確保、地域愛の醸成を図る。

2 解決を目指した地域課題

- 地域の特産品である柚子の認知度向上
- 住民の地域愛の醸成

3 取組内容・成果

柚子の収穫体験イベント「ゆずフェス」を農事組合法人安富ゆず組合設立20周年記念イベント「ゆずまつり」と同時開催し、関連イベントを通じて、多くの来場者に参加いたくことで、姫路市安富地域が柚子の生産地であることを広く周知し、柚子の認知度向上に大きく寄与することができた。

時期	主な内容
8月 ～ 11月	イベントの企画・準備等
11月	「ゆずまつり」「ゆずフェス」PRイベント（参加者500名）
11月	「ゆずフェス」開催（参加者600名）



ゆずフェス



「ゆずまつり」「ゆずフェス」
PRイベント

4 今後の展開（実施団体の声）

参加費により運営可能な仕組みを構築し、イベント等を通じて「安富ゆず」の認知を進めていく。また、生産活動に関心を持つ方が新たな担い手として活動していけるよう支援していきたい。